



パンフレットとは『学校に行かない子どもたち』田中氏作成 (作成年月日は不明～たぶん90年代)

7

で困んだ部分
パンフレット

パンフレットでは学校についても言及した。

子どもたちが行けなくなった「学校」とはどういったものなのでしょうか？ 教育評論家の斎藤次郎さんは、一年間青森県の小学校に小学四年生として通学し、子どもたちと一緒に「子どもの時」を過ごしたことがあります。斎藤さんによると、学校には三つの機能があるといえます。最大の機能は「託児機能」です。子どもを学校に預けて、親は働くことだけでなく、自分の時間を過ごすことができます。この最大のメリットが、百年以上も学校を支えてきました。第二の機能は、子どもにとつての「サロン機能」です。学校は仲間を作る場所、社交性を身につける場所です。この二つの機能で学校機能は約九〇%を占めます。残りの一〇%が狭義の「教育」機能です(注：出典の記憶は曖昧だが、たしか『母の友』に掲載された斎藤さんの文章は、当時とても合点がいった)。

しかし、現代は教育機能が最大の機能として君臨しつつあります。この機能の逆転が子どもたちを忙しくし、サロン機能を壊している壊れたサロンが「いじめ」を生んでいるようにも思います。学校には、教育という学校の時間と、サロンという子どもの時間があります。子どもは、学校の時間でいっぱいし、そのことを経験し、子どもの時間で生き生きとなるはずですが、学校は、このバランスを大切にしながらくつはけないはずですが、現実には学校の時間が幅を利かせ、子どもの時間が奪われています。

折々のことば 鷺田 清一 2382



先生！みんなちがって みんないいって言いますが、どこまで一緒で、どこからちがっていいのですか

自由・平等とか環境保護とか、誰もが尊重し、誰もあえて反対しないことがある。多様性もその一つ。でも、言葉に浮かされて、その意味するところをしつかり突きつめないでいると、大勢の人たちが別のことがいいと言いだした時、あっさりそちらに流れてゆく。詩人の4コマ詩「いろいろ」(「月刊コリア共和国」5月号)から。

2022.5.18

佐々木貴子

おそらく、こうした校内の居場所は、現在、適応指導教室や学習支援をしてくれる児童デイサービス、あるいはフリースクールといった校外の関係機関へと広がりを見せている。

実際に文科省も、「それぞれの可能性を伸ばせるよう、本人の希望を尊重した上で、場合によっては、教育支援センターや不登校特別校、ICTを活用した学習支援、フリースクール、夜間中学での受入れなど、様々な関係機関等を活用し社会的自立への支援」の必要性をうたっている。

僕は、選択肢が多くなることの益と、校内で対応していくという熱意の弱体化を、ほんの少し危惧する。熱意は時に支配となり、子どもたちにとって重圧ともなるが、時に、自分を思い続けている人の存在、という心の支えにも繋がる場合もある。

これ以上学校の時間につぶされまいと、あるいは歪んだサロン機能からの脱出を目指して、不登校という手段を選ぶ子どもが出てくるのは、当然といえば当然ではないでしょうか？ 親は、こうした危うい空間に子どもを追いやることに熱心になるよりも、避難してきた子どもを守り、こうした空間を改善するように学校に働きかけなくてはいいと思えます。

児童精神科治療の覚書 10
不登校についてより一部抜粋
田中康雄(児童精神科医)
ミンゴとそだちのフリニップ
むすびめ

お元気ですか
「ウッドパッカー」は皆さんのニーズに合っているだろうかと思えば、もやもやして書けなくなったり、5月は発行できませんでした。

不登校は13万人台が続いていましたが、あっという間に19万人を越えました。
「学校とは何ぞや」を根本的に考えなくてはいけない時だと思えます。田中康雄さんは発達障がいについての文献が多いですが、『不登校について』もとてもいいと思えました。別刷りも同封しました。

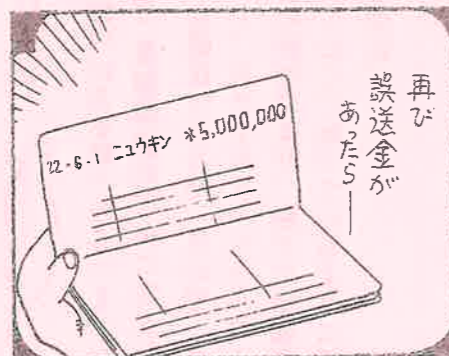
蓮心寺で見つけた言葉
道を知っていることと
道を歩くことは
ちがう
映画
「マトリックス」より



平和行進に初めて一日通しで参加しました。浪岡を9時10分に出発して、藤崎町、田舎館村、黒石市、平川市を歩き15時半に弘前の桜大通りで弘前に引き継ぎました。お天気が良かったので、宣伝カーから流れる歌声に合わせて歌いたのが気持ちよく行進できました。先輩方がつないできたものをつないでいきたいと思います。「ウッドパッカー」も次につなごうと思っています。

文責 阿部陽子 スマイルサポート(017-722-3749)

そだちの科学
2018.10
に掲載



●チェックリスト

No.	項目	一級(茶帯)	初段(黒帯)	師範(紅白帯)
05	水の流れる場所を、キレイにする	洗面所のまわり、水が飛び散ったら、すぐふく	キッチンのシンクまわりも、使い終わったらすぐふく	フロアは、出るときに、水をはく
04	光るものを磨く	洗面所の鏡は、汚れたらすぐふく	部屋の窓ガラスは、いつもピカピカ	冷蔵庫のトビラも、ピカピカ
03	冷蔵庫を片付ける	ごちゃごちゃになつてきたら、片付ける	あらかじめ同じシリーズの密閉容器に入れてから、冷蔵庫へ	冷凍庫のトビラに、「いつ何を入れたか」の一覧表が貼つてある
02	越分しい新聞雑誌は、中身を見ずに、さっさと棄てる	一カ月に一度の古紙回収の前の夜までに、部屋中の古新聞、雑誌をかき集める	雑誌は判型別に、常に重ねられている	常に本棚にキッチンと整理されていて、新しいものを一冊買うと、必ず一冊処分する
01	脱いだ靴は、そろえる	脱ぐたびに、「あーそろえなくっちゃ」と氣づく	一緒に脱いだ人の靴も、ついそろえる	不特定多数の人の靴が集まる場所で、片っ端からそろえる

●身のまわりから、変えてみる！

どれだけ定着したか、チェックしてみよう！

一度トライしてその後続けているものが、どのくらい日常の中に根付いたか、次のリストで実際にチェックしてみましょう。
三段階あります。

トコナヒして
こそろいっつ!!

1級茶帯 (茶)

おぬしもなかなかやるな

初段 (黒帯)

あっぱれ!

師範 (紅白帯)

ひとつでも「師範」があつたら、かなり自信を持つてください。
キツパリ変わっています。
目指せ！ 師範。